

# 八百万の日身(神)

今夏は記録的な猛暑日が続き、夜も寝苦しい大変な夏でした。気象庁の気象データを調べると、終日「雨」という日が富山県内では一日もありませんでした。「曇り後一時雨」とか、「時々雨」という日を数えても7日程度でした。

気温も三十五度前後で、三十度を切ると、涼しく感じるほどの猛暑日が続いた今年の夏。

海洋研究開発機構の分析によると、異常気象と言われた猛暑の原因は、インド洋と太平洋の一部で水温の異変が同時に発生したことが原因だそうです。太平洋の異変は「エルニーニョもどき」と呼ばれて、なんと、これから本格化する恐れがあつて、残暑が厳しくなる可能性があるというのです。

まだまだ続きそうな今夏の残暑、皆様どうか御自愛専一になさってください。

## ●天地自然に感謝し、

### 共生してきた大和民族

自然の猛威や異常気象は、今に始まったことではありません。古来から人々に猛威を振るってきましたが、日本人は「八百万の神々」として、そん

な大自然の猛威をも「神(かみ)」と呼び、畏敬の念と畏れを抱いて生活してきました。

「八百万の神々」というのは、日本人の自然に対する心を表しています。「八百万の神々」というのは、「数え切れないほど多くの神々」という意味で使われています。日本人は天地自然の数え切れないほど多くのものに神を見ていました。

山、川、草、木、鳥、獣、風、雷と、ありとあらゆる物事に神々の存在を感じていたことが『古事記』などから読み取れます。

誤解しての方も多くおられるようですが、日本人の考えている「神」というのは、キリスト教など一神教で言うところの「GOD(ゴッド)」とは全く違います。日本人が感じてきた自然やその背後にある不思議な気配や存在のことを「かみ」と呼び、「神」という字を当てました。

ちなみに、日本人の「かみ」は天にいる神ではなく、私達一人一人を指しても言います。西洋では「神」と人間は明らかに違いますが、日本人の「かみ」は『日身』と書いて、人間一人一人が太陽の子供である『日身(かみ)』とも呼び合っていたのです。

※太陽(日)から命を頂いている身体(身)のみ。つまり太陽の子供=天地自然の存在。私達人間も自然の一部で「日身(かみ)」なのです。

日本人が言う「八百万の神々」の「神」は唯一絶対神の「GOD」でもなければ、「GOD」と訳すことも出来ないのです。

## ●八百万の日身(かみ)が

### 教えてくれるもの

「八百万の神々」が存在しているかどうかは問題ではありません。大事なのは、それを感じられるかどうかなのです。

「八百万の神々を感じる心」とは、いわば日本人の自然に対する情感といえます。

天地自然は不思議です。時に恵みをもたらすし、時に猛威を振るい、命を生かすもするし、殺しもします。尊くもあり、恐ろしくもあります。人知では到底及ばないものであり、そこには人知を超えた計り知れないものを感じずにはおれません。そこに大和民族は不思議な気配や存在を感じ、「八百万の神々」を見出しました。

そしてまた、天地自然に生かされている私達人間も霊的な存在と言えます。中でも、日本人独特の情緒や感性が、天地自然に「八百万の神々」を感じる自然観を養わたのだと思います。

この「八百万の神々を感じる心」は、日本人の生き方、日本人の心を思い起こさせてくれます。

紐解けば古代より、日本人は天地自然

に八百万の神々を見出し、畏れ敬ってきました。神々への畏れ敬いは、天地自然への恐れ敬いです。日本人は八百万の神々を見出すことで、天地自然への謙虚さを育み、共生して生きてきた歴史がありました。

富山県人の皆様とお話していると、「立山が守ってくれた」。「お陰様です」。「ありがたい」などなど、自然に対する感謝の言葉を口にされる方が多くおられます。

自然から分け与えられた恵みは、神々からの恵みであり、自然の猛威は神々の力、自然の光景は神々の姿という感覚が息づいている事を感じます。特に富山県人の皆様には、天地自然に対する畏敬の念を感じるわけですが、傲(おご)ることなく、畏れ、敬い。謙虚な心、感謝の心を持つて生きる本来の日本人の生き方、考え方と言えらると思います。自らも自然の循環の一部であり、自然の中でしか生きられないことを、実感としても、感覚的にも知っているのだらうと思えます。

自然の循環とは命の循環、魂の循環です。一つの魂の終わりが、次の魂の糧となり、魂の輪廻を形作ります。日本人は自らの魂もまた、天地自然の魂神々の魂と繋がっている事を強く実感しているのです。その繋がりを大切にしてきたのが大和民族です。

現代を生きる私達は、ともすれば自

分達のみだけで生きていられると思いがちですが、自分の命は自分のもののように見えるけれど、自分でつくったものではないかもしれません。私が存在するのは両親が産んでくださったから。そして、何があっても、ずっと生き抜いて下さった祖先達が命のバトンをつないでくださったから私達の命があります。また、太陽の光や水や土や微生物や虫たちの見えない活動があつて、空気を作り出してくれる植物など全てが育っています。私一人では存在する事すら出来ません。

●おかげさまの心

「おかげさま」には主語がありません。「おかげさま」には、おかげさまで助かりました、ありがとうございませす。感謝致します、という部分が含まれています。そしてそれは、目の前の人だけに感謝しているのではなく、見えない物や現象にも感謝の念を込めています。日本最古の書物と言われる【古事記】や、正史と言われる【日本書紀】にも記されているように、私達の祖先である大和民族は、古来から大自然や目に見えないものに畏敬の念を抱いて生活していました。「おかげさま」は、何か特定の宗教を持たずとも、日本の精神文化として、八百万の神々と、ひとつ命を生きている日本人の深い信仰心を表す言葉だと

言えます。何か悪い事があれば自分のせいだと反省し、何か良い事があれば「有り難い・おかげさまで」と捉える。そんな日本人の絶妙な考え方があります。そして、本当の意味で「おかげさま」の気持ちを理解する為には、「生かされている」という感覚が無ければ絵に描いた餅です。この「生かされている」という捉え方も日本人の精神文化に息づいている真理だと思えます。一般的には、自分が「生きている」という言い方をしますよね。でも、先程も申し上げたように、自分の命は自分一人だけのものではありませんでしたよね。

今の時代だからこそ、「八百万の神々」を感じる事が大切だと思います。天地自然の八百万の神々を見出し、心から畏れ敬い、感謝と謙虚の心を持って、共生して生きていく。「八百万の神々を感じる心」とは、まさに自然と共生してきた日本人の生き方そのものです。この心は、人がこの地球で生きていく上でも、とても大切な日本人の叡智であると思えます。

合掌 副住職 谷川寛敬

“大笑い”して  
心も体も  
元気になりましょう！



日時：平成30年9月8日（土）  
開演：午後1：30（開場午後1時）  
入場料：無料

どなた様も出入り自由！  
お待ち致しております！！

第3回

おてらく

～真成寺お気楽演芸会～

日時/ 平成30年9月8日(土)  
開演 午後1時30分(開場午後1時)  
会場/ 真成寺 本堂  
入場料/ 無料  
出演/ 社会人落語家集団「ばららくご」より  
川中奈丸、ふう風亭みるみる ほか

【お問合せ】  
玉蓮山 真成寺  
〒937-0867 魚津市真成寺町4-6  
Tel.(0765)22-2268



駐車場はございますが、限りがございます。  
公共交通機関のご利用にご協力ください。

